

授業概要

本授業は、北米地域、そのなかでもアメリカとカナダに焦点をあて、国民統合の歴史について講義する。アメリカやカナダは、さまざまな文化的背景をもつ集団で構成されている国である。そして、それらの集団が共生・共存するために、各時代に応じた国民統合理論が形成された。本授業では、それらの国民統合理論の変遷や形成された背景を紹介しながら、さまざまな集団の特徴についてもふられていく。全 15 回の授業のうち、前半ではアメリカ、後半ではカナダを中心に講義を行う。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：本授業の概要と目的
第 2 回	アメリカと移民：アメリカへの移民の流れとその背景
第 3 回	アメリカと国民統合①：アングロ・コンフォーミティ
第 4 回	アメリカと国民統合②：メルティング・ポット
第 5 回	アメリカと国民統合③：文化的多元主義
第 6 回	アメリカと国民統合④：多文化社会(1)
第 7 回	アメリカと国民統合⑤：多文化社会(2)
第 8 回	アメリカと国民統合⑥：現代アメリカにおける諸問題(1)
第 9 回	アメリカと国民統合⑦：現代アメリカにおける諸問題(2)
第 10 回	カナダと移民：カナダへの移民の流れとその背景
第 11 回	カナダと国民統合①：アングロ・コンフォーミズム
第 12 回	カナダと国民統合②：多文化主義
第 13 回	カナダと国民統合③：ケベックと間文化主義
第 14 回	カナダと国民統合④：現代カナダにおける諸問題
第 15 回	総括
第 16 回	筆記試験（記述式）

到達目標

- ①アメリカやカナダの国民統合理論の歴史の変遷について説明することができる。
- ②本授業にて取り上げるさまざまな集団の特徴について説明することができる。
- ③本授業にて取り扱う事例を通じて、他者を理解し、尊重する心を涵養することができる。

履修上の注意

本授業は、高等学校の「世界史」を受講者が履修していることを前提に行う。よって、高等学校で「世界史」を履修していない者は、事前に「世界史」の教科書のアメリカ・カナダ史に関連する部分に一度目を通しておくことが望ましい。

予習・復習

事前に授業の関連資料を配付するので、予習しておくこと。また、授業で学習したことを整理し、自分の言葉でまとめること。

評価方法

試験 50%、小レポート 30%、受講態度 20%

テキスト

特定の教科書は用いないが、適宜資料を配布する。